

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370158

研究課題名(和文)中国現代アートと公民社会の形成

研究課題名(英文) Chinese contemporary Art and process of civilian Society

研究代表者

牧 陽一 (MAKI, Yoichi)

埼玉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：40241921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間に北京、香港へ合計6度の海外調査を実施できた。また全媒体から収集した資料によって「アイ・ウェイウェイの少年時代」「パスポート奪回後のアイ・ウェイウェイ」など15項目の成果論文等を発表できた。また「アイ・ウェイウェイは謝らない」の監督アリソン・クレイマン、亡命漫画家 ラーシャオ辣椒 ろくでなし子氏らに講演をお願いした。アイ・ウェイウェイを中心に中国現代アートと市民社会の形成がどの様に関わっているかを解明できた。

研究成果の概要(英文)：The grant enabled us to do six research trips in Beijing and Hong Kong, which provided us with an opportunity to gain sources with regard to Ai Weiwei and other artists. Thanks to the grant, we published 15 articles, including “Ai Weiwei’s Boyhood”, “Ai Weiwei After Recovering of His Passport.” It also made it possible for us to invite a documentary film director Alison Klayman, a political cartoonist and political refugee Rebel Pepper, and an artist Rokudenashiko, who is famous for her performances themed on vagina (Manko). We believe that this project succeeds in providing clearer and deeper understandings on the relationship between Chinese contemporary Arts and the rise of civilian Society.

研究分野：芸術学

キーワード：艾未未アイ・ウェイウェイ 公民社会 中国現代アート 民主化

1. 研究開始当初の背景

本研究の最終的な目的は中国現代アートと民主化、公民社会の形成相互の関係について探求することである。従来現代アートにおける政治性についてある程度論じられることがあっても、民主化、公民社会の成立を中心に据えた研究は少ない。また現代中国についても現代アートと公民社会は別個に論じられるのが常であった。本研究では公民社会形成の問題を大胆に中心に据えて、両者の相互関係を探求していきたい。また中国現代アーティストの思考様式から行動様式に至るまで詳細に検討したい。本研究によって中国現代アートの特質を明らかにしていく。(公民とは政治に参加する庶民を意味する。またここで美術と呼ぶのは近代まで、現代アートとは思考や観念を含む全媒体表現である。)

2011年度から13年度まで科学研究費を得て「中国現代アートにおける政治性」をテーマに研究を進めてきた。2011年4月3日から6月22日、著名なアーティスト艾未未が逮捕投獄される事件が起きた。牧はこの前後を含め、2009年から13年まで7回にわたって艾未未と面談し、3回まとまったインタビューを試み、公表してきた。この間大量の翻訳、論文を発表し、12年には400p近い研究書『艾未未読本』を翻訳執筆編集し出版した。また14年に2冊目の艾未未研究書『アイ・ウェイウェイスタイル』を刊行した。

ここで明らかになってきたのは艾未未作品の多くには社会問題が常に裏付けとなっていることだった。それは2008年の北京オリンピック、四川汶川大地震から顕著になっている。四川汶川大地震後、艾未未は実地調査し手抜き建築が原因で倒壊した校舎の下敷きになって亡くなった子供たちの名簿を制作している。例えば鉄筋を真っ直ぐに伸ばした作品、「あの子はこの世界で7年間幸せに過ごしたのだ」という犠牲者の母親のこぼれを8738個の通学鞆でつくった作品、また通学鞆で蛇の形につくった作品(蛇は再生の意味を持つ)は追悼の意味と地方政府の腐敗が原因で亡くなった「人災」への憤怒が込められている。また不法入獄中、2人の看守に24時間監視された様子を再現したジオラマ作品が2013年ヴェネツィアで展示されたし、再現映像はミュージックビデオ「シャーパーイー」でYouTubeに公表された。出獄後政府は猥褻罪や脱税罪など様々な方法で艾未未の社会的信用の墜落を狙ったが、それを公民の支持で乗り切っている。艾未未は2013年5月香港で「粉ミルクの国」を発表。1815缶の粉ミルク缶で横10メートル縦8メートルの中国地図をつくっている。これは、2008年には中国でメラミン入り毒ミルク事件が起き、6人の幼児が死亡し、腎臓結石など30万人に障害が出た事件を思い起こさせる。政府監視の下、ソーシャルネットワークキングサービスを駆使した艾未未の発言は人

権問題、言論表現の自由(インターネットの自由化)、司法の独立、公民社会の成立と公民の権利、権力と資本の癒着と腐敗から環境問題、食品の安全性、少数民族の問題、児童や女性への虐待問題へと多岐にわたる。だがいずれの問題も現代中国の抱える重要な問題であり、結果的には弱者迫害へと連鎖する。そして全てが弱肉強食、原始的な現政権への批判へと繋がっていく。社会に責任を持ち、変革を促していく態度は公民社会の形成をリードするものではないか、と考え本研究の入り口とした。

中国報道の第一線に立つジャーナリスト古畑康雄、麻生晴一郎、ふるまいよしこ各氏にも専門的知識の提供を受け、SNSによる公民社会の成立、また教育問題や農村の貧困を考えるNGOによる活動など、探求すべき方向性も見えてきた。まずは現時点から遡上する方法で現代アートと民主化、公民社会の成立について考察を加えていきたい。

これまで文革後今日に至る中国の前衛芸術、中国現代アートの歴史、毛沢東時代のプロパガンダ芸術、「芸術区」の調査、現代アートにおける政治性の問題を手掛けてきた。その結果、一般に捉えられる現代アートとの大きな違いを見出すことができた。それは各時代の中国美術、中国現代アートに反映された政治性の強さだった。さらに日本と中国の現代アートの比較研究にも着手した。ここには両者の類似点と相違点が見出された。政治と対峙する面で中国現代アートの前衛性は長く続き、しかも強い。

日中現代アートの呼応は国際化、グローバルスタンダードへの認識による公民の問題意識の共有に端を発しているだろう。そしてそれは両者に共通する社会状況、貧富の差の拡大、新たな階層の出現といった問題に対する現代アートの反応でもある。だが中国の作品群に政治性が強く見られるのは「権力と資本の結託」という世界に例を見ない独占的権力に対する公民側の反撃でもある。本研究ではグローバル化と中国の支配体制、高度成長の問題が中国現代アートと公民社会にどのような影響を及ぼしているのかを考えたい。この研究は世界の現代アートをめぐる問題の一端を明らかにするだろう。

2. 研究の目的

三権分立がない体制、批判勢力が政治の場に存在しない状況、これが中国の現状をめぐる突出した問題であろう。つまり本来政治的な現場になくしてはならない対抗勢力が存在しない中国共産党独裁の現実では、それに代替するものが政治機構内に期待できない。新聞雑誌等旧媒体も体制の規制にあっている。そのため「文化」が報道的となり、またアートが政治的にならざるを得なくなる。その結果、SNS、民主化、公民社会の成立が重要となり、それを牽引あるいはそれと同行するア

アーティストは強靱な批判精神を持たざるを得ず、また見方によれば直截的で浅薄な表現形態をとらざるを得なくもさせる。だがこうした状況が作家の精神の根底に基礎体力をつけさせることは否定できない。本研究ではまず中国現代アートの反体制的傾向を析出し、民主化、公民社会との相互関係を思考したい。それは公民の主張、表現の自由と政治的圧力の相克を探る研究となり、より具体的事象の追及とならざるを得ないが、その点が逆に本研究の独創性となるだろう。

また作家が市場とは全く関係ないところで作品をつくり続けている事実も確認したい。ポップな絵画が市場に溢れ、高値を更新する流れとは全く別に、作家の主体性や問題意識の際立った作品群も存在する。本研究では自立した表現、また逆に社会事象に依拠した表現をも追及していきたい。

さらに1960年代以降の日本の前衛芸術とそれに関する評論が、現在の中国現代アートに対して一つの指針を示唆しているように思われる。さらに日本のみならず各地の資料を収集整理し、論の構築に役立てたい。「社会主義リアリズム」は中国共産党の政策を支持し、正しさを裏付けるために用意され、今では御用芸術に成り下がった。こうした体制的な美術の状況についても詳細に検討し、問題点を具体的に析出していきたい。

また中国現代アートの傾向を通史的に検討していきたい。ここで重要なのはアートが何者にも従属しないということであろう。「政治体制」も「商品化」をも拒否する。つまり現体制の権力と資本の集中した「共産党の独占資本主義」と対峙し続ける。また美術の伝統、さらには既存の現代アートの文脈からも独立する。現代アートは現状を批判できる立ち位置を先ずは維持し続ける必要があるだろう。こうした面から考えれば、例えば先の艾未未の行動はアーティストとしての立ち位置を確保する行為だと考えられる。こうした民主化、公民運動への参加、現実を批判的にとらえる姿勢についても詳細に検討を加えていきたい。そして中国現代アートの行動と思惟を総合的に把握したい。

以上、本研究の目的は体制的美術の動向も含む中国現代アートと民主化、公民社会の形成の相互関係を探求することである。現実に入り込んだ作品と現実への批判的態度、事象に依拠しない自立した表現を中心に、体制、反体制、非体制の総合的な政治性をも追求することが本研究の特色の一つとなる。また時代は毛沢東時代まで遡り、後の「星星画会」「85美術運動」「ポリティカル・ポップ・アート」「シニカル・リアリズム」「北京東村」「死体派」と芸術運動ごとに追及し、2000年以降では「上海 M50」「北京 798」「草場地」などの「芸術区」を中心に調査、資料の収集を展開していきたい。毛沢東時代については視覚表象をはじめとする政治宣伝の具

体的な資料を収集し、検討する。「星星画会」「85美術運動」「天安門事件、民主化運動との関係を明らかにする。90年代以降についてはアーティスト村、芸術区の思想と行動を追及したい。最終的には本研究によって中国現代アートの政治的特質、民主化、公民運動との相互関係を明らかにし、末には中国文化の本質にまで迫っていきたい。また日本の1960年代以降の前衛芸術との比較研究も視野に入れ、より客観的な研究を目指す。本研究が実現されれば、より深い中国現代アート研究が成され、世界文化の中の中国文化の特質が明らかとなり、より深化した文化交流、文化研究の礎になるものと確信している。

3. 研究の方法

本研究の目的は中国を中心に現代アートの歴史、地域的差異を調査・研究し、中国現代アートの政治性の特質、民主化、公民運動との相互関係を析出していくことである。そのためにはまずSNS等の新メディアの調査を行い現時点の状況を把握する。同時に建国以前1930年代から現在に至る中国都市文化に関する書籍・資料の収集、検討を行う。また毛沢東時代のプロパガンダ芸術についても調査、資料収集、検討を加える。「星星画会」以降の現代アートの動きに関わる資料収集、聞き書きを加える。さらに現在の芸術区を実地調査し、資料を蓄積する。最終的には収集資料を元に政治性、民主化、公民運動との相互関係を軸に中国現代アート史を構築する。そのためには中国、台湾、香港等の研究機関における資料の閲覧、複写、整理が必要である。また研究者、キュレーター、アーティストに研究計画について助言を受け、聞き書き調査を実行する。

1、本研究はその目的からして当該資料の十全を期さねばならないので、第一に当該資料の収集、整理を行う。

2、本研究の全体的な計画は以下の通りである。

第一部 研究の主眼となる中国現代アートの政治性、民主化、公民運動との相互関係に係る資料の整理。建国以前の都市文化、近代美術に関わる文献、図像資料の収集整理。

第二部 延安時期から建国後、毛沢東時代の文化に関わる文献、図像資料の収集整理。

第三部 文革後現在に至る表現活動（演劇・映画・美術等）中国現代アートに関わる文献、図像、写真など視覚資料の収集、整理。上記の3段階の研究の取りまとめを行い、中国現代アート史を再構成する。

第四部 中国における中国現代アートの形成と民主化、公民運動との相互関係について中国「北京・上海・広州」香港などを中心に調査、検討する。

第五部 台湾における現代アートの政治性、社会運動との相互関係について台湾「台北・

台南・高雄」などを中心に調査、検討する。上記の地域の現代アートの政治性、民主化、公民運動との相互関係について比較検討し、中国文化資源「革命伝統」「中華伝統」の差異についても検証する。

以上の内、平成 26 年度は第一部、二部の毛沢東時代と現代を中心に調査研究を進め、27 年度以降は三部以降、総合媒体、都市文化調査を中心に研究を進める。

3、中国現代アートの政治性、民主化、公民運動との相互関係に関わる文献、図像資料の収集・整理を行う。

平成 26 年度 国内、北京の研究者に研究計画について指導、助言を受ける。

東洋文庫、東京大学東洋文化研究所、早稲田大学図書館、同演劇博物館、東京藝術大学図書館、中国研究所、京都大学人文科学研究所、天理大学図書館、愛知大学図書館等、各研究機関所蔵の「上海などの 1930 年代都市文化、社会主義リアリズム絵画・彫刻」から「延安時期の毛沢東様式生成」に関わる図像資料、文献の複写、整理。

上記研究機関および福岡アジア美術館等所蔵の建国以前の美術作品、カレンダー、ポスターなどの閲覧、複写、整理。北京大学中文系・中国社会科学院文学研究所・中国芸術院美術研究所・中央美術学院・中央戯劇学院など中国、北京の研究機関所蔵の関係文献の複写、整理。当研究に関して北京の研究者にレビューを受ける。

平成 27 年度以降 上海、広州、香港、台湾での調査研究。

上海市図書館、復旦大学図書館等の関係文献の複写整理。

上海市美術館等のキュレーター、アーティスト、上海文化研究者に研究に関してレビュー（指導と助言、資料の紹介提供）を受ける。

広州美術館等で資料の収集、整理を行うとともにキュレーター、アーティスト、広州文化研究者に研究に関してレビューを受ける。

台湾の台北美術館、台南、高雄で当該研究に関する資料を収集、整理すると共に研究者に当該研究に関してレビューを受ける。

日本、中国、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア等で出版された中国美術と政治に関わる書籍の購入、整理。

総合媒体、中国・台湾の現代アート、ドキュメンタリー映画、小劇場演劇などの記録資料、視覚資料の収集と整理を行う。上記の文献の文献目録、雑誌の目次目録を製作する。

都市の「芸術区」北京「798 大山子芸術区」「芸術東区」「酒廠」「宋庄」上海「莫干山路 50 号（通称 M50）芸術区」台北「華山文化園区芸文特区」台南「台南芸術大学応用芸術研究所」高雄「駁 2」に関して具体的に

実地調査する。

4. 研究成果

北京、香港など 6 度の海外出張を行い、現代アートと市民運動について調査を進め、15 本の論文や翻訳を行った。また「アイ・ウェイウェイは謝らない」の監督アリソン・クレイマン、亡命漫画家 变态辣椒 るくでなし子氏らに講演をお願いした。同時にパスポート返還前後の艾未未をリアルタイムで追いながら考察を深めた。

その結果、現代アートが社会改革を進めていく方向性が具体的に明らかとなった。ここから展開して艾未未の作品や行動を、マルセル・デュシャン、ヨーゼフ・ボイス、アンディ・ウォーホルとの比較検討によって、その立ち位置を明らかにしていく段階に入った。

2007 年ドクメンタ 12、アイ・ウェイウェイは 1001 人の中国人をカッセルに招へいするプロジェクト「童話（おとぎ話）」を行った。この時のインタビューでアイはヨーゼフ・ボイスの 7000 本の樫の木を植樹するプロジェクトを継承するものではないかと訊かれている。アイは「人類の文化活動のすべては継続であり、公衆の意識を動員する面で「社会彫刻」といえば社会彫刻だが、この言葉が受け入れ難いほどではないに過ぎない」と答えている。さらに行動の痕跡や、人権問題についての行動など、拡張された芸術概念の面でもアイにはボイスを継承する面があるだろう。

ところで中国で、従来の芸術概念への疑問が噴出したのは、2000 年代だと言えるだろう。孫原 & 彭禹は、北京今日美術館での二手现实后现实 & 前现实展で、20 頭の犬をルームランナーで走らせ、2003 年、北京左岸公社での左翼展ではキックボクシングの試合を作品とし、徐坦は中が透けて見えるサウナをアートスペースに登場させた。2005 年北京 0 工場实验艺术中心での各玩各展で孫原 & 彭禹はゲームのように観客にウレタンの川を渡らせた。芸術概念を突き破り、芸術とは考えられないものを芸術と見なす作品はこの頃から連続して登場してくる。

これらの作品群はボイスの言う「拡張」とは根本的な違いがある。ボイスは人間の内なる創造性を発展させる芸術の社会的役割を強調する。孫原 & 彭禹は悪ふざけというかからかいの域にあって、従来の芸術概念、さらにまじめなアートをも嘲笑するかのような態度を見せる。その点はあまりにも空虚だが、一方でボイスの方向への嘲笑でもあるのなら、アートはアートにすぎないというわきまえ方ともいえるし、中国社会に絶望し、社会に参与することなど無意味だと示す虚無的なものにも見える。

アイ・ウェイウェイは彼らの拒否する政治

性のある意味でボイスからさらにボイス以上に具体的に体験していくのではないだろうか？それは中国の体制そのものが他の政権とは比較にならないほどに固い岩であり、民衆の声を、正しい意見を聞かず、自らを正さず、政府に逆らう人間を抹殺していただけたからだ。声を出そうにも出せない恐怖が存在する限り、いっそ無言でいた方がいいと思うのは当然だ。

2014年4月30日、「上海 CCAA 中国当代芸術賞 15年」展で艾未未(アイ・ウェイウェイ)の名前が会場の壁から消された。さらに一ヶ月後の5月23日、北京 798 コーレンス現代美術センター(UCCA)でオランダ人の中国現代美術研究者、戴漢志(ハンス・ファン・ダイク)についての展覧会「戴漢志 Hans Van Dijk ハンス・ファン・ダイク(1946-2002): 5000 の名前」展が開催され、同様に艾未未の名前が隠された。案内状の写真からも艾の姿は切り取られた。9月中央TV「青春ってなんだ」コーナーにアイ・ウェイウェイ登場。だれもアイを知らなかった。

2015年6月6日から北京4か所で初めての個展が開催される。

6月22日4年前に投獄されていた場所を発見したと、インスタグラムに写真とビデオを公表。7月22日午後3時ごろ、アイのインスタグラムには「パスポートを取り返した」とアイとパスポートの写真が映し出された。

2015年9月19日から(12月13日まで)ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)で美術展が開催されることになっていた艾は、6カ月のビザを申請したが、イギリスは「犯罪歴」を申告しなかったとして、わずか20日のビザしか発給しなかった。7月30日ドイツへ。

10月23日、艾はメルボルンの国立ビクトリア美術館で開催される「Andy Warhol - Ai Weiwei」展(12月11日-2016年4月24日)で展示する作品制作のために、LEGO社に大量のブロックを注文したが、同社から「政治的、宗教的、差別的、品位を乱し、中傷的である」創作物に使用されることは容認出来ないという理由で提供を断られた。

2016年難民救済の活動と作品制作のためにレスボス島、ヨルダンからレバノン、ガザ地区、ケニアなどで活動。9月フィレンツェ ストロツツィ宮殿 救命ボート 難民の救済を訴える。2017年05月現在世界各地の難民を追ったドキュメンタリー「人流」が完成し年内に公開される予定である。8月銀川ピエンナーレ(中国寧夏回族自治区)の参加者から削除される。

アイの作品は常に社会問題を問うことが裏側に隠れている。今回銀川ピエンナーレで出品されなかった作品は、艾のニューヨーク時代の作品がモチーフになっている。それは、マルセル・デュシャンの横顔を針金のハンガーでつくったものだった。今回は美術館前に

巨大化し、四川汶川大地震の現場で集めた鉄筋でつくる予定だった。

アイ・ウェイウェイは先のインタビューで自らをヨーゼフ・ボイスよりはむしろアンディ・ウォーホルに近い、ウォーホルの「調侃からかい」の方がしっくりするし、この時代の発生させる変化に直面することができる」と述べている。アイは社会変革の面からはボイスの、ポピュリズムの面ではウォーホルの継承者ともいえる。それを可能にしたのは現在のネット社会と言えるだろう。ウォーホルから継承したのはポピュリズムそれだけではない。社会の断面を、そして時代を衝撃的に表現する点でもそうなのではないか。

ウォーホルとアイの類似と相違が典型的に表れているのはウォーホルの「13人の最重要指名手配犯」1964と「@LARGE AIWEIWEI ON ALCATRAZ 2014/09/27-2015/04/26」だろう。ウォーホルは、1964年ニューヨーク万博で、「ニューヨーク・ステート・パビリオン」の外壁に1962年にNY市警が指名手配した犯人の写真をもとに壁画を制作した。しかし当時のニューヨーク州知事ネルソン・ロックフェラーは、共和党から大統領候補指名を考えていた。知事は選挙への影響を危惧し、開幕直前に銀色のペンキで壁画を塗りつぶさせた。

アイは、かつて監獄だったアルカストラ島で、独房のバスタブ、トイレ、洗面ボウルを陶器でできた白いバラで埋めた。さらにマーチン・ルーサー・キング、エドワード・スノーデン魏京生、劉曉波、譚作人、イリハム・トフティら世界各国の「良心の囚人(非暴力であるが言論や思想、宗教、人種、性などを理由に不当に逮捕された人)」をレゴのブロックでつくった。

ウォーホルは逮捕者のマグショットの衝撃性に注目し、その表情に浮かぶ犯罪都市ニューヨークを浮き彫りにしようとした。一方アイは不当に逮捕された人々の肖像を、子どもの玩具という平和的手段であるレゴブロックでつくることで、世界の抱える問題を強調させた。彼らはアイにとってのスターだ。状況への批判的眼差しは両者に共通するが、アイの表現は歴史や世界に視野を広げ、良心の囚人を選択することで、メッセージ性を明確にしている。

アイは地震調査、難民援助など行動の中からモチーフを抽出して表現へと昇華し、行動の痕跡も作品に落とし込んでいる。こうした表現は自身の経験や思考と結びついている。言うなれば、ボイス的な「まじめさ」とウォーホル的な「からかい」の絶妙なバランスで、作品が成立している。それはアートがアート足り得る点でもあるし、アートをアートとわきまえる境界とも言えそう。

アイは20世紀の現代アートを丹念にそして地道に学習してきたと思われる。ニューヨーク時代にはアンディ・ウォーホルのポートレートの前で同じポーズで写真に納まっている。またマルセル・デュシャンの「大ガラ

ス」の向こう側で写真を撮り、デュシャンの横顔を針金のハンガーでつくった。

アイは自分自身を美術史の中に位置づけることで、現代アートを「認識」し、普遍的な課題と対峙する道筋を獲得していったと言っている。つまり自分が何者なのかを認識する過程をかなり誠実に実行していったという事だろう。常に地道で詳細な学習を経てから、それを批判的にとらえ、根本から解体したうえで、再構成する、そして作品化がなされる。常に批評的態度で歴史、伝統文化や美術史を捉える点では終始一貫していると言えるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

1. 牧陽一「現代アート覚え書き 2015 - 北京・香港・東京」『埼玉大学紀要 教養学部』,51(2):315-331 2016 (査読無)
2. 艾未未 牧陽一談 牧陽一訳「アイ・ウェイウェイ インタビュー (2015年03月) ろくでなし子、芸術の表現、フェミニズム…」『週刊読書人』,総3086号 2015年04月17日:第7面 2015 (査読無)
3. 牧陽一「ろくでなし子事件に関する意見書」『埼玉大学紀要教養学部』,51(1):145-153 2015 (査読無)
4. 牧陽一「艾未未 2015 体制は醜悪に模倣する」,石井知章・緒形康 編『アジア遊学 193 中国リベラリズムの政治空間』 勉誠出版 2015年12月,アジア遊学 193:208-225 2015 (査読無)
5. 艾未未 牧陽一「アイ・ウェイウェイ インタビュー (聞き手・牧陽一) アーティストとして / 民主活動家として」『週刊読書人』,総3075号 2015年1月30日号:第8面 2015 (査読無)
6. 牧陽一「誰が私の名前を消したのか? 艾未未アイ・ウェイウェイ 2014」,『埼玉大学紀要 教養学部』,50(1):149-166 2014 (査読無)
7. 牧陽一「汎アジア的アートへ (アライ=ヒロユキ 『天皇アート論』 書評) 」,『週刊読書人』,総3064号 2014年11月7日号:第6面 2014 (査読無)

〔学会発表〕(計2件)

1. 牧陽一「中国における表現の自由 アイ・ウェイウェイを中心に」 2016/09/18 浦和コミュニティセンター 第8集会室 (浦和 PARCO 10F) アムネステイ・インターナショナル日本 浦和グループ
2. 牧陽一「表現者のリスク: アイ・ウェイウェイの場合」 2016/10/29 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス現代中国学会第66回全国学術大会【共通論題】 「リスクで測る中国の諸相」

〔その他〕ホームページ等(計8件)

1. 牧陽一「艾未未 (アイ・ウェイウェイ) の少年時代」 Web ARTiT, 2016/06/29 2016
2. 艾未未著 牧陽一訳「インターネットが私の国だ」 ドイツの新聞「Der Tagesspiegel (ターゲスシュピーゲル)」(2015年8月7日)より Web ARTiT, 2016/06/28 2016
3. 牧陽一「パスポート奪回後の艾未未 (アイ・ウェイウェイ)」 Web ARTiT, 2016/05/11 2016
4. 企画、文、訳 / 牧陽一「対談: 艾未未 × ろくでなし子」 Web ARTiT, 2015/07/07 2015
5. 牧陽一「中国における初の艾未未の個展開催は艾未未事件の句読点なのか?」 Web ARTiT, 2015/07/30 2015
6. 艾未未 聞き手: 蘇晏 翻訳、解説 / 牧陽一「中国での初個展『艾未未』展をめくって 艾未未インタビュー インタビュー」 Web ARTiT, 2015/07/30 2015
7. 牧陽一「艾未未アイ・ウェイウェイ 穴倉生活そして生き埋め生活」 Web ARTiT, 2014/06/17 2014
8. 艾未未 牧陽一「艾未未インタビュー (2014年9月)」 Web ARTiT, 2014/12/29 2014

6. 研究組織

- (1) 研究代表者 牧陽一 (MAKI, Yoichi) 埼玉大学・人文社会科学研究科(学際系)・教授

研究者番号: 40241921

- (2) 研究分担者 ()

研究者番号:

- (3) 連携研究者 ()

研究者番号:

- (4) 研究協力者 ()